



第 1673 回例会

平成 23 年 9 月 12 日(月)

19 : 00～ 海南商工会議所 4F

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. 出席報告
会員総数 60 名 出席者数 42 名
出席率 75.00% 前回修正出席率 70.00%

4. 会長スピーチ 会長 田村 健治 君

皆さんこんにちは。昨日の 11 日は、東日本大震災から丁度半年目の日だったので、多くのテレビ局が特集を組んでいましたね。皆さんもご覧になりましたか? 改めて大津波の恐ろしい力に身のすぐむ思いがしました。今日の話はこの前の原発の話のときに出でてきた自然エネルギーによる発電のマイナーバージョンです。



東日本大震災の津波によって被災地には大量の瓦礫が土地を覆う状態になりました。その様子はテレビで見ましたよね。その量はトータルでどのくらいになるか想像できますか? 岩手県では年間処理量の 12 年分に相当する 580 万トン、さらに、宮城県ではその約 3 倍の 1500 万～1800 万トンに上るとの見通しが出ています。これはおよそ県内で排出される一般廃棄物のなんと 23 年分に相当するということです。また、これらの処理費用として 3000 億円が見込まれています。政府の推定によると、今回の災害の瓦礫の量は 2500 万トンあり、その約 8 割に当たる 2000 万トンが木材とみられております。皆さん、そんな大量の瓦礫をただ燃やして処分してしまうのは勿体ないと思いませんか? 思いますよね。でもそれが有効利用する方法があるのです。それが木質バイオマス発電と言われるもので。木質バイオマス発電とは間伐材や木材の廃材などを燃やした熱で蒸気を作り、その蒸気の圧力をタービンを回して電気を作る仕組みです。木を原料とするチップを燃焼させると二酸化炭素が発生します。しかし、この二酸化炭素はチップの素となる植物

が成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素ですので、チップを燃焼させても全体としてみれば大気中の二酸化炭素は増加させていないというカーボンニュートラルの考えに基づいています。

現在、日本には木質バイオマス発電所は全国に 100 所程度あり、民間企業が運営しております。このバイオマス発電では木くず 10 万トンで年間 1 万キロワットの発電が可能とされています。今回の災害で 2000 万トンが木材の廃材となりましたので、これを利用できたならば、2000 万キロワットの電力を生み出せることになります。一方、環境省は、災害廃棄物処理事業費として、瓦礫処理費用と同額程度を計上する方向ですが、ほとんどが焼却処分される見通しです。確かに廃材はそのまま処分するとゴミになりますが、視点を変え、処理の仕方を変えることで、廃材だったものが今、日本に最も必要な電気になります。津波によって流されてしまったことで、たくさんの思い出の詰まった木材は廃材となってしまいました。その木材をただゴミとして処理してしまうのではなく、今の日本に必要なものに変えられるのであれば、変えるべきです。そして、被災地の未来をもう一度明るく照らす木材となって欲しいものです。

5. 幹事報告 幹事 山畠 弥生 君 本日の幹事報告は特にありません。

6. 会員卓話

○ヒマラヤ慰靈登山

花田 宗弘君

30 年前学生時代の山の仲間がヒマラヤの高峰ガウリシヤンカール (7135m) で遭難、帰らぬ人となりました。仲間のほとんどが定年退職となり時間に余裕が出来たので、まだ体力のある間にと昨年末、有志をつのり遭難現場までは無理としても、現場が目の前に見える山の頂上に慰靈ペンダントを置き花束をささげ、山の歌を唄って慰めてあげる慰靈登山を行うことになり、8 名が参加しました。現場はネパールの首都カトマンズからバスで約 8 時間、そこからキャラバン隊を組み、遭難現場の近くチョルドンピーク (3690m) を目指しました。このコースは

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- | | |
|----------|----------------|
| ①真実かどうか | ③好意と友情を深められるか |
| ②みんなに公平か | ④みんなのためになるかどうか |



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：田村 健治 幹事：山畠 弥生 SAA：岩井 克次



一般登山客がほとんど行かない所なので、山小屋はなくすべてテント泊でしたが、テント、食料はすべてポーターに担いでもらったし高度もそれほど高くないので、それ

ほど苦しい目にはあいませんでした。食事も日本の登山隊に同行したことのあるコックが日本人の好みの味付けで毎回工夫をこらし美味しいものを食べさせてくれました。ネパール人は非常に親日的で、時間も正確に守り気持ちのいい山行でした。前半の一週間はこの様に殿様登山だったのですが、せっかくヒマラヤに来たのだから世界最高峰のエヴェレストにできるだけ近づこうと言うことになり、あと2週間5200Kmまで登ったのですが高山病に悩まされ、食欲もなくなり氷点下15度の世界でよれよれになって帰ってきました。

○タスマニアで紀行

私もこれまでの体験について話します。前にタスマニアを花田さんと旅行しました。詳細なスケジュールも立てず、とにかく、行き当たりばったりで、タスマニアを100Km歩きました。現地では元ガバナーの家に泊めてもらったり、途中、ミルクなどを買って山小屋で過ごしたりの連続です。現地ではワラビーや多くの野生動物にも出会いました。蛇にもでくわしました。1日に3回躊躇ながら、崖にたったときは怖かったです。歩くときは考えながらで、危険がいっぱいです。ガスボンベを持っていましたが、最後のガスで沸かした紅茶はとても美味しかった。いろんな体験をしました。

○和歌山県の人口

金川 龍一君

2010年に近畿で初めて、和歌山県の人口が100万人を割りました。全国では39位です。さらに、2017年には92万人に減少すると推定されています。また、65歳以上の人口が24.1%を占めています



○海南市の人口

1980年	1990	2000	2010
67,942人	64,930	60,373	54,640

将来の人口

2020年	2025	2030	2035
47,882人	44,385	40,937	37,503

出生数

1995年	2000	2005	2010
549人	514	398	325

65歳以上人口

1995年	2000	2005	2010
13,029人	14,699	15,813	16,964
0	0	0	0



社会動態(人)

	平成18年	19	20	21
転入	1,279人	1,095	1,233	1,233
転出	1,601人	1,594	1,540	1,481
増減	△322	△499	△307	△290

7.閉会点鐘

次回例会

第1674回例会 23年9月26日(月)

海南商工会議所 4F 12:30~

会員卓話

木地 義和君 岸 友子君 小椋 孝一君



ニコニコ・BOX



Happy birthday
9月お祝い



○会員誕生日

1日 桑添 剛君	18日 萩野 昭裕君
7日 中村 俊之君	19日 辻 亮君
9日 山田 耕造君	23日 前田 克仁君
16日 大澤 祥宏君	25日 大谷 徹君
17日 柳生 享男君	28日 岸 友子君

○奥様・旦那様誕生日

4日 深谷 恵子様	14日 吉川かつ美様
8日 柳生 多恵子様	18日 田中 順子様
11日 大江 由美子様	20日 山畠 雅志様

○結婚記念日

17日 辻 秀輝君	29日 魚谷幸司様
17日 柳生享男君	

○一般ニコニコ

土井 元司君 お見舞有難うございました。無事退院しました。

<国際ロータリーニュース>

環境保護に力を入れる南カリフォルニアのクラブ

結成1年目の新クラブが、資源の再利用プロジェクトを通じて、地域社会に大きな影響を与えています。6月16日に新加盟したモローベイ・エコ・ロータリークラブ(米国カリフォルニア州)は、地元の役所や環境保護団体と協力して、3つのゴルフ場から出る雑草や食品廃棄物をもとに堆肥を作り、ゴルフコースの有機肥料として利用しています。また、地域のイベントではリサイクルや堆肥作りによってゴミを出さないよう努め、ゴミを減らす方法について人々に情報を提供しています。川沿いに在来種の植物を植えて、外来種の増殖を抑える試みもこうした環境保護の取り組みの一つです。

